

2018年度 河鎌洙地域プロジェクト成果報告書

担当教員名 河鎌洙

メンバー

・地球祭り班 中村夏代 池田瑞穂 藤原愛莉紗 佐久間朝夏 工藤克也

・芸術祭班 津田優希 川口芽奈 栗田和佳 佐藤侑也 水落智大

本プロジェクトは、函館市で開催されている国際交流イベントである「地球祭り」と「はこだて国際民俗芸術祭」に焦点をあて、SNSなどを活用し、多くの人に発信すると同時に函館市の国際交流を推進させることを目的としたものである。活動は地球まつり班と芸術祭班の2手に分かれて行ったため、以下説明はそれぞれのプロジェクトに沿ったものとする。

背景

◆地球まつり

地球まつりとは函館を拠点として、国際交流・国際協力活動をしている NGO/NPO が一同に回すイベントである。プロジェクトが始動し、まずは実際に地球まつりに参加。来場者にアンケートを実施し、分析を行った結果、食べ物を目的にしている人が多いこと、若者の来場が少ない事が分かった。私たちは次年度の開催に向けた会議に積極的に参加をし、この2点を改善すべく活動を行った。

◇芸術祭

芸術祭責任者、ふくだくまさんと本プロジェクトの方向性を話し合った際に、毎年芸術祭のボランティアスタッフが足りていないという問題を共有した。また、函館の国際交流を活性化させる、という目的を達成するため、学生間への芸術祭の認知度を高めることが挙げられた。

フェスティバルのスタッフは接客でコミュニケーション能力を学べるだけでなく、会計などお金に関すること、会場設置などの力仕事、広報、グッズ販売など人生に必要なことが学べるということで“イベントスタッフには人生のすべてが詰まっている”というふくださんの言葉を受け、大学生に向けた宣伝文句を考案した。

また、スタッフを経験することで各国のアーティストと接する機会が客として参加するよりも増え、より世界の価値観や文化に触れることができるだろうとして、本プロジェクトを校内での芸術祭スタッフ募集に絞ることにした。

目的

◆地球まつり

ローカル国際交流イベントである地球まつりの知名度を上げ、来場者を増やし、外国に目を向けるきっかけにしたい。

◇芸術祭

はこだて国際民族芸術祭のスタッフを通して、函館市における国際交流活動を学生からも発信できるように促す。

プロジェクト概要

◆地球まつり

地球まつり、大学内でのアンケート調査を実施。見えてきた課題を踏まえ、動画作りをし中間報告会

にて上映。また、積極的に次年度開催に向けた会議に参加をし、10月に開催される本番にもステージ係として参加をし、結果を見届ける。

◇芸術祭

大学校内でスタッフを募集し、プロジェクトメンバー自らもスタッフとして活動しながらその様子を記録し、次年度スタッフ募集プロジェクトに向けての準備をおこなう。

プロセス

◆地球まつり

地球まつりに参加し、アンケート調査を実施→若者の知名度を知るため大学でのアンケート調査実施→動画を作成・発表→次年度開催に向けた会議に参加→本番にも参加

◇芸術祭り

昨年、校内で実施した芸術祭に関するアンケートを引き継ぎ、分析→芸術祭責任者・ふくだ氏との打ち合わせ→校内での芸術祭スタッフ募集説明会の準備・開催→スタッフミーティングへの参加→地域プロジェクトメンバーの芸術祭にスタッフとしての参加

成果

◆地球まつり

地球まつりの本番はこれからのため、本当の意味での成果はまだ分からないが、アンケート調査の結果が今年度開催の地球まつりに反映された。また、大学内で地球まつりをPRする動画を上映したため、以前よりも知名度が上がった。

◇芸術祭

昨年度より大学生スタッフの増加。校内での芸術祭の認知度向上。

年間スケジュール

	地球まつり	芸術祭
10月	地域プロジェクト始動 地球まつりに参加	地域プロジェクト始動
11月	地球まつり反省会に参加	昨年のアンケート集計
12月	中間発表準備 紹介動画作成	中間発表準備 福田氏との打ち合わせ
1月	紹介動画完成 中間発表	スタッフとの打ち合わせ 中間発表
2月	地球祭り会議に参加	福田氏との話し合い
4月	地球祭り会議に参加	芸術祭スタッフ募集説明会(企画・準備)
5月	PR動画完成	芸術祭スタッフ募集説明会(運営) 芸術祭スタッフミーティングへの参加
6月	地球祭り会議に参加	芸術祭スタッフミーティングへの参加
7月	成果発表会	成果発表
8月		芸術祭に参加

9月

10月

地球祭りに参加

総括と反省・今後の課題

◆地球まつり

一年間という期間の中で中だるみをしてしまった時期もあったが、内部から関わるという点で、積極的に会議に参加できたことは良かったと思う。今後は、より発展した活動にするために、内容を変える必要があると思う。

◇芸術祭

活動方針の確定に時間を要してしまったが、プロジェクトの目的が明確となった上で活動を進めることができた。また、スタッフ募集説明会の対象を絞り、宣伝を行ったため、30人以上の参加者を募ることができた。そのうち、スタッフとして参加してくれている方が数名いる。

今後の課題として、このプロジェクトでの成果を数字として記録することが難しく、また、プロジェクト時期が本祭の開催時期とずれているため、プロジェクトとして長期的に関わるのが難しかった点が挙げられる。今後は一年スパンで活動計画を立てる必要がある

地域からの評価

◇地球まつり 実行委員会のメンバー様より

函館市の振興、かつての元気ある街にするため皆さんの活動は大変意義深いものです。地元の大学生のフレッシュな感性が時代の流れ、変化に対応した取り組み、イベントに導いてくれます。地球まつりにおいても様々な提案ありがとうございます。実行委員の一人として感謝しております。

◇芸術祭 代表者様より

①計画段階:当初は、芸術祭の内容を紹介する動画を作るといった計画でした。しかし、会合を重ねた結果、今回は説明会を開催することに変更しました。このように、芸術祭のニーズを聞き取った上で計画を変更するなど、地域プロジェクトのメンバーに具体的な成果を上げようとする姿勢を感じました。

②評価段階:説明会の会場が急に変更されるというハプニングはありましたが、地域プロジェクトのメンバーは柔軟に対応し、説明会を無事に終えることができました。参加者の表情は興味にあふれており、説明会直後に芸術祭スタッフの登録者数が伸びるなど、具体的な効果があらわれました。写真等、当日の記録を適切にとられていました。また、反省点や改善点を記した書面も、過不足なく的確にまとめておられました。説明会后、地域プロジェクトのメンバーの一部は芸術祭のスタッフミーティングに参加し、芸術祭期間中もその一員として重要や役割を担いました。ともすれば、一過性・形式的に終わるところ、今回のプロジェクトは継続的かつ有意義だったと評価できます。地域プロジェクトのメンバーは、芸術祭を通じて、地域の国際化に貢献されたと認識しています。

③改善段階:説明会に参加者を集める方法、説明会当日の進行方法など、細かな改善点はすでに地域プロジェクトのメンバーが把握されているようです。今回は説明会でしたが、今後は映像資料の作成・公開など、いわゆる「手離れのいい」方法を開発されて、より地域に対してインパクトのあるプロジェクトに取り組まれることを期待しています。